

博 文 館 發 行 圖 書 廣 告

帝 國 文 庫

全五拾冊

壹冊紙數千頁餘
洋裝背皮金文
字入上製美本

正 價

●壹冊金五拾錢 ●拾冊金四圓六拾錢
●三拾冊金拾參圓 ●全部五拾冊金貳拾圓

運送)帝國文庫ハ一冊ノ紙數一千頁以上ニシテ目方二百頁以上ナ
注意)ルヲ以テ普通郵便便ヨリハ小包郵便ノ方便ナリ、小包郵税ハ
一冊ニ付拾五錢、百里迄拾貳錢ナリ

我 日本出版業の未嘗有の大出版なる帝國文庫は、古來神史小説中の最大著述なる、太閤五拾卷を以て完成を告げ、未曾有の出版業全く終れり。全部皆な是れ古名家が、畢生の力を注げるもの、情緒纏綿、奇想超凡、一回之を手にすれば、書を措く能はざる妙味あらん。

帝國文庫全部目次

博文館 校訂 眞書太閤記 全四冊

附太閤朝鮮軍記... 法橋玉山 (原書參百八拾四卷合本)

絶代の英傑豊公の事蹟を録して、其振瀾の氣度家邁の膽略、一藤吉より起りて太閤たるを見よ。

博文館 校訂 源平盛衰記 全壹冊

(原書四拾八卷合本)

源平の興廢は最大の悲劇なり、風流豪傑の磨り盡き英雄美人黄土に歸す、文の妙亦三嘆すべし。

博文館 校訂 南總里見八犬傳 全三冊

(曲亭馬琴作... 原書四拾八卷合本)

馬琴の不朽なるは八犬傳にあり、其沙翁ハコトに駢眉するを得るは八犬傳にあり、八犬傳哉。

博文館 校訂 東海木曾道中膝栗毛 全壹冊

- | | | |
|----------------------|-----------|----------|
| 東海道中膝栗毛 | 金毘羅參詣膝栗毛 | 宮島參詣膝栗毛 |
| 木曾街道膝栗毛 | 從木曾路膝栗毛 | 善光寺道中膝栗毛 |
| 上州草津膝栗毛 | 善光寺路膝栗毛 | 滑稽江ノ島土産 |
| 溫泉道中膝栗毛 | 奧羽一覽道中膝栗毛 | |
| (十返舎一九作... 原書六拾五卷合本) | | |

膝栗毛の一書は實に一九の寫照に充つべし、滑稽突梯、洒落瀟灑、噴飯すべく、絶倒喫驚すべし。

博文館 校訂 梅曆春告鳥 全壹冊

目次
春色惠の花... 春色梅ごよ美
春色對暖語... 春色梅美婦禰
春色雛の梅... 春色若草
(爲永春水作... 原書百〇五卷合本)

江戸人情本元祖とは作者春水が梅曆に成功してより自ら稱する所、鏡花水月眞に人情を曲盡す。

博文館 校訂 通俗三國志 全貳冊

(高井蘭自作... 原書七拾五卷合本)

蜀の文惠、魏の曹操、吳の孫權、三傑各一方に割據して三國の大活劇を起る、快絶奇絶妙絶。

博文館 通俗吳越軍談

全壹冊

(池田東籬 夢梅軒章峰作 原書拾五卷合本)

越王勾踐吳を敗て歸々臥薪嘗膽の苦節始て然るを得たるなり樂士雲の如く宮女花一知き亦可快。智を以て勝を制する是漢の高祖なり勇を以て勝を制する是楚の項羽驅鬼役神の大觀此裏に存す。

博文館 楠廷尉秘鑑

全壹冊

(著者不詳 原書百參拾卷合本)

楠公正成の忠誠智謀三世に傳へて其名は則萬世に朽らず。本書南北兩朝の終始を叙し得て詳悉。

博文館 風來山人傑作集

全壹冊

風來六々部集 根南志具佐
風流志道軒傳 前太平記古跡集 金の生
神靈矢口渡 田舎芝居 弓勢智勇
嫩翠葉相生源氏 (原書拾六卷合本) 驪山比聖塚

風來山人は一個奇傑の士時を得ずして文墨に耽る、故に其嘲世罵俗の筆皮肉に徹して骨に沁す。

尾崎紅葉 校訂西鶴全集

全二冊

好色一代男 好色一代女
好色五人女 好色二代男
好色二女 好色一代女
好色三女 好色一代男
好色四女 好色一代男
好色五女 好色一代男
好色六女 好色一代男
好色七女 好色一代男
好色八女 好色一代男
好色九女 好色一代男
好色十女 好色一代男

好色一代男 好色一代女
好色五人女 好色二女
好色二女 好色一代女
好色三女 好色一代男
好色四女 好色一代男
好色五女 好色一代男
好色六女 好色一代男
好色七女 好色一代男
好色八女 好色一代男
好色九女 好色一代男
好色十女 好色一代男

元祿の大作家西鶴等の著漸く湮滅して世に傳はらざる者多し今稀世の名作を輯めて此冊を成す。

博文館 滑稽傑作集

全二冊

開卷百笑... 烏亭馬... 花曆八笑人... 瀧亭鯉文
思慮變類論... 式亭三馬... 滑稽二日酔... 瀧亭鯉文
魂膽夢輔譚... 一筆庵主人... 六あみだ詣... 十返舎一
傾城買二筋追... 梅暮忠谷哦... 世の中貧福論... 十返舎一
七偏人... 梅亭金鶴... 大師の語り... 十返舎一
箱根草... 龍亭三馬... 大出遊中膝栗毛... 十返舎一
狂言田舎操... 式亭三馬... 人間萬事虛誕計... 三馬鯉文
茶番樂屋... 櫻川慈成... 浮世名所圖繪... 四郎主人
返我煉... 烏亭馬... 浮世の正夢... 三芝居士
會我煉... 藤川珍語... 浮世の正夢... 三芝居士
當世杜撰商... 幸慶子... 浮世の正夢... 三芝居士
俄やんく... 幸慶子... 浮世の正夢... 三芝居士

博文館 其碩自笑傑作集

全二冊

浮世朝仁氣質... 世間子息氣質... 國性翁明朝太平記
風流軍配... 風流西海... 世間手持氣質
御伽代紙表... 商人守御... 渡世身持談義
御伽代紙の巻... 傾城三味線... 白笑樂日
傾城三味線... 傾城三味線... 白笑樂日

名教の中樂土あり滑稽の中倫を眞理ならん以て旺皮を捨るべく亦以て大悟徹すべきなり。
八文字屋もの、江島其碩八文字舍自笑の傑作を集む、一種の妙文字、盡く方今將難き者ならむ。

幸嘗得 忠臣藏淨瑠璃集 全壹冊

目次
 假名手本忠臣藏 竹田出雲
 鑊方武士鑑 中村阿彌
 忠臣、るは貴鑑 近松半二
 忠臣貞後約大石 福内鬼躬
 忠臣貞後日嘯 北脇素直
 (原書貞三卷合本)

近松門左以來忠臣藏の淨瑠璃を作るもの數十家篇什亦多からずさせず本編其妙中の妙を集めり。

博文館 四大大奇書 全二冊

目次
 繪本西遊記 作者不詳
 夢想兵器 曲亭馬琴
 胡蝶物語 山東京傳
 座敷藝忠臣藏 柳亭種彦
 伊波引寺入飾用 柳屋南北
 女坂志匠要 柳屋南北
 傾城播磨石 作者不詳
 (原書貞三卷合本)

弓張月、西遊記、夢想兵器、和壯兵衛、快奇珍怪妙等の言以て之を悉すに足らず、本書を讀め。

博文館 續氣質全集 全壹冊

目次
 諸商人世帯氣質 江島屋其積
 莫測大臣氣質 一瀧
 富世貞女氣質 作者不詳
 和國小姓氣質 麟長
 佛徳家最上氣質 式亭三馬
 世間長者氣質 自笑端笑
 夫婦氣質 作者不詳
 教草女房氣質 山東京傳
 世間侍婢氣質 魁又臺
 世傾城氣質 増舎大梁

氣質全集先に既に發刊す然るに遺珠尙極めて多く世人之を望む早の雲に於けるが如く續出づ。

近松時代淨瑠璃 全壹冊

目次
 凱軍八島 國性合戰
 大船争奪 文武五人男
 賀宮教信七墓廻 大磯虎物語
 會我五人兄弟 平賀女譚島
 浦島年日記 松風雨車帶鑑
 大喧問答 持統天皇御軍法
 雪女五枚羽子板 (原書九拾卷合本)

近松門左衛門の稀世の名家たるは其篇什に富める世既に之を知る、本編は時代物の粹を集む。

博文館 大岡政談 全壹冊

目次
 大岡越前守出世の事 天井一長坊
 煙草屋喜八 村井長川
 小間物屋主兵衛 傾城半四郎
 津川國屋お菊 水谷村九助
 白子屋お熊 直助權兵衛
 松倉重四郎 松山お花
 雲切に左衛門 (原書七十一卷合本)

博文館 佛教高僧實傳 全壹冊

目次
 龍樹菩薩傳 天親菩薩傳 曇鸞大師傳 道綽禪師傳
 善導大師傳 惠心僧都傳 法然上人傳 聖德太子傳
 傳教大師傳 弘法大師行狀記 道元禪師行狀記
 上達上人一代記 親鸞上人一代記 慈惠大師一代記
 元三大師一代記 祐天上人一代記 (原書四十六卷合本)

法徳一代に卓絶せるもの學行萬世に傳ふべきもの或は紫衣或は雲水而して高僧するや皆一なり。

博文館 馬琴傑作集 全壹冊

目 俊寛傳 島物語 頼家傳 關原怪談 三七傳 梅樹何夢
次 隅田川 梅柳新書 松染情史 秋十草 占夢 梅柯傳記

(原書九十九卷合本)

馬琴の筆大作短篇皆其妙を極む、本篇は短篇中特に傑出せるものを集む、曲亭の偉觀茲に存す。

博文館 續仇討小説集 全壹冊

目 天下茶屋敵討真傳記 二島英勇記 彦山權祝靈驗記
次 箱根山 靈應傳 敵討孝女傳 突燧夜話小泉外傳

(原書六十七卷合本)

復讐の事亦人類の一美性一快學たり、法の禁する所と雖も其志や尙ぶべく其事蹟や奮勵すべし。

博文館 淨瑠璃名作集 全壹冊

管原厚授手習鑑 竹田出雲 伊賀越道中 双六 近松半二
妹背山婦女庭訓 近松半二 太平記 愚原講 近松半二
目 藤取子 兩袖 近松半二 御所 御所 夜討 文 耕堂
關原道滿 木内鑑 竹田出雲 義經 千本櫻 竹田出雲
次 本朝 廿四孝 近松半二 燈籠 兜 軍記 作者不詳
ひらいたな 燈籠記 三好 松洛 小野道成 青柳 硯 竹田出雲
(原書七十二卷合本)

門左以外に海音、宗輔、貞雲、松洛等十數の名家あり各一の特長を有す、本編以て讀みすべし。

博文館 俠客傳 全壹冊

目 播磨院長兵衛 著者不詳 天覺水滸傳 狐 倉卒成
目 盛定忠次實傳 著者不詳 鼠小僧實記 著者不詳
次 神明 強勇傳 著者不詳 奴の小まん 柳亭種彦
神の黒兵衛 感謝亭典武 江戸繁三人 肥後 柳亭種彦
松前屋五郎兵衛 著者不詳 (原書百七十七卷合本)

勇の溢れく任然の行さなる名教以外其可憐、快絶奇矯の言動は以て讀者を驚すに足るべし。

博文館 續仇討小説集 全壹冊

目 荒美談 實説名器血邊 仇討合弁辻
次 敵討高田馬場 都勇傳 孝子 燧物 語
八月赤子 娘敵討 (原書十卷合本)

十年一節を磨き來り燃熱して長蛇を屠る復讐の事蹟運來神氣を旺すべし、況んや其傑作を集む者。

村松世話淨瑠璃 全壹冊

目 生玉 心中 繪籠 二重帷子 心中 萬年草
目 博小郎 浪枕 五十年忌 念佛 天 網 萬年草
目 丹波 波島 作 傾城酒 童子 冥途 日本 振袖 始
次 女 露 露 妻 蓋 傾城酒 童子 源氏 日本 振袖 始
目 可干 燈籠 吉野 忠告 信 門出 八十八島 傾城 反魂 香
次 生駒 田川 (原書六十九卷合本)

葉振子の作に於ける時代物已し至巧な話物亦妙絶の作多し本編は則ち後者傑出せる者を録す。

市河米庵
先生手

楷行薈編

全拾五册
紙入日本紙刷
縦八寸八分○横六寸
三分○厚三寸一分

定價 金 參 圓

小包 十里迄 九錢
百里迄 十六錢
百里外 卅二錢

關 潢南
先生選輯

行書類纂

全拾貳册
紙入日本紙刷
縦七寸八分○横五寸
三分○厚三寸一分

定價 金壹圓五拾錢

小包 十里迄 九錢
百里迄 十六錢
百里外 卅二錢

瀨尾鷗齋
先生編輯

草叢

全拾貳册
紙入日本紙刷
縦八寸八分○横六寸
三分○厚三寸四分

定價 金參圓五拾錢

小包 十里迄 九錢
百里迄 十六錢
百里外 卅二錢

書の楷行草あるは稍學校に大中小あるが如し、草を卒りて行に入り、楷に入る、是れ書學の順道たり、今此三編の書、晋漢に溯り明清をも取る、斯道に遊ぶもの、寶贖なり。

秦貽白懷甫先生著

六書通

全一册和裝 正價金五拾五錢
木版刷鮮明 郵稅拾錢

市河米庵先生著

畧可法

全三册和裝 正價金三拾五錢
木版刷鮮明 郵稅六錢

石川鴻齋先生著

書法詳論

全一册和裝 正價金四拾錢 郵稅六錢

斯編始め體法を論じ、古人執筆の圖解を類にし、人々天性の筋骨に由て、自然義獻の妙處に到らんことを詳かにす。古へより書論の多き、汗牛充ならず、然れども、繁に過ぎ冗に陥り、家々論を異にして、遂に歸する處を知らざるが如し。斯論先哲の秘訣を集め、今人の邪徑を排して、古人の正路に就かしめんとす、未段字畫の誤謬を正し、運筆の順序を示し、以て初學の便にす。

石川鴻齋先生著

畫法詳論

全三册和裝 正價金五拾錢 郵稅八錢

此書始め畫源を説き、南北の論を詳かにし、數法點法、青綠、沒骨の法より、花卉畫獸及び人物傳神の法を述ぶ。且つ謎語讀題、落款印章の用ひ方及宋元明清諸名家の妙論を纂し、獨り南示ののならず、土佐、狩野、四條、住吉及西洋畫家に至るまで、坐傍欠くべからざるの書なり。

市河米庵先生編

墨場必携

全五册和裝 正價金拾五錢
郵稅八錢

中村秋香先生編

書翰文大成

全二册和裝 正價金壹圓
美麗紙函入 郵稅廿四錢

内外勝地寫真銅版畫入

中村先生從來我邦書翰文牀の日用に
適切ならざるを憂ひ、之に向て一大
改良を施さんとの説を持せらるゝと
久し、斯書は即ち其改良手段の端
緒として、はた模範として編纂せら
れたる者にして、専ら實用を旨とし、
虚飾の文辭を避けて習文に見易から
しむ。特々男女書簡文の起原、沿革、
變遷を詳かにし、書法、假字遣その
他種々なる注意を與へてあます處な
し、實に著者多年意を用ひし、實地
の往復文なり。

傳家 明治節用大全

全一册背皮 正價金壹圓六拾錢
金文字入洋裝 頁方六頁外

石川鴻齋先生著

文法詳論

全二册和裝 正價金四拾錢 郵稅六錢

續文法詳論

全二册和裝 正價金四拾錢 郵稅六錢

世に作文の法多しと雖、大約古人の作例を取て、
助字虚字及抑揚頓挫照應段落等を説くのみ、先
生風に清人沈氏、黃氏、張氏等に隨て、親しく作
文の法を學び、語勢の緩急に由て、助字虚字の用
法を異にすることを示し、且つ古人の妙論を纂
めて斯編を著はし、以て其蘊奥を盡せり、世の文
を作る者、此編に由て之を學ばば、言語の自在な
を得て、古人の藩籬に入るも難からざるべし

石川鴻齋先生著

詩法詳論

全二册和裝 正價金四拾錢 郵稅六錢

戸田翠香先生著

文章字典

全壹册和裝 正價金六拾錢
銅版印刷鮮明 郵稅六錢

本書は著者八年間の苦心を以て、成りしものに
して、虚字助語の類、又た普通の實字に至るま
で、網羅收拾亦不遺漏するをなし、而して毎字妥
當なる解釋を施し、語々熟語を挿入し引用書目
を掲げ、以て其用例を知らしむ。凡そ手筆を以て
金玉詩文を作爲し、天性の妙趣を發露するを得
るは、此書を措て他に求む可からざるなり。

大田淳軒先生撰

歴史字典

全一册和裝 正價金五拾五錢
銅版印刷鮮明 郵稅六錢

科學の盛なる 歐米諸國に於ては、夙に專門の字
典あり、然るに我邦未だ歴史字典なきは、實に
一大缺典と謂はざるべからず、淳軒先生之を遺
憾とし此編あり、普通用ゆる所の漢字を網羅し、
名乗、諡號、御諱、神名、官職、年號、姓氏、人
名、地名、熟語の十項に分ち、之が解釋をす、
史を學ぶものは勿論漢學を講ずる人は必ず備へ
ざるべからざる寶典なり。

第一高等學校教授 萩野由之先生著

中等 日本歷史

著者の我國史學に深きことは世皆已知之を知る、本書は筆を日本の地、建國の體裁、政治の變遷に起し、進んで太古史近古史に及び、遂に廿七八年戰役、臺灣鎮定に終る。文辭明快、敘事富麗、加ふるに現今の中等教育の程度時世に應じて、加除修正を施したり。

全貳冊 背皮
金宇入上製
定價五拾五錢
郵稅一冊八錢

中等 西洋歷史

歷史の書汗牛充棟、其中等教育の名を冠する者亦少なからず。本書の著者別に見る所より、教授時間を斟酌して、繁冗に流るゝを防ぎ、成るべく上世を簡略にして、近代に至るに從ひ、漸く精細ならしめ、固有名詞の發音は其時代と感々さに從ひ、多く精巧なる地圖と繪圖とを挿入し、西洋歴史を一本として説くことに、三たび意を致せり。是等即ち本書の特長にして、從來世にある所の萬國史と異なる所なりとす。

全壹冊 背皮 正價金七拾錢
金宇入洋裝 郵稅八錢

中等 萬國歷史

全貳冊 背皮 正價金壹圓廿錢
金宇入洋裝 郵稅拾六錢

文學士 中原貞七先生著

萩野由之先生著

日本歷史評林

全貳冊 總ク正價金壹圓廿拾錢
ロ、ス洋裝 郵稅八百
諾再二尊、大八洲を生成まし、より、徳川幕府の末に至る、其間歴代天子の御行より名臣の言行、朝野の現象に就て、古今大家が評釋批評を加へたるもの、皆な事實の真相を發揮するに好參考たり。史を讀むもの、必ず三誦せざるべからず。

中西牛郎先生著

全壹冊 裝 正價卅五錢 郵稅六錢

南梁 小宮山綏介先生編
殘花 戸川安宅先生著
三百諸侯 全壹冊 總クロリス 正價金壹圓貳拾錢 日方六百

新撰 日本外史

落合直文、小中村義象兩先生合著

全壹冊 背皮
金宇入洋裝
正價壹圓廿錢
日方四百

歴史の要は、能く事蹟を推究して真相を記すにあり。されば亦文章明暢を缺くときは、讀者其真相を解するに苦しむ多し。本書は國史國文に精通するを以て撰さるゝ所の兩先生の著なれば、能く事蹟の真相を得たるは勿論、文章雅健雄渾にして、一讀手を釋くに忍びざる如きものあり。一貫秩然、復た變易からざるの良史也

益田、孝君、矢野、次郎君、序文
 高等商業學校教授、祖山、鍾三君、編纂
 三平、物産、會社、大田、...

英和商業作文辭彙

全壹冊背皮金字入 正價壹圓卅錢 郵稅拾錢
 本書は商業に要する字句を集め、之をイロハ順に綴りたる者にて、最も實際取引上に適切なるを期し、煩をvari、要を蒐め、理を講じ、例を舉げて、斯書類中の冠冕たるものなり

英文科専攻 文學士 畔柳都太郎君抄

英文典語句慣用法

全壹冊背皮金字入 正價金七拾錢 郵稅八錢
 英語に特殊なるイヂオマチカル、ユース即ち慣用法は從來遺憾にも等閑に附せられたれば、新得文典文法書の類も概ね英語の半面を教ふる者に過ぎず、本書の著者深く茲に憾あり、最近の著なるマズイ、ルド氏文典の一部を抄譯し、我國學生が解し易からしめん爲め、一々丁寧な解釋を施し、殊に前置詞の如き、數十頁の表を附して其用法を詳記したれば、英語を讀み、英文を綴らんと欲する者は、一日も缺く可らざる寶典也

志工 保昌編纂
 全壹冊洋製 正價廿七錢 郵稅八錢

世界格言大全

全壹冊洋製 正價廿七錢 郵稅八錢
 本壹冊洋製 正價金六拾錢 郵稅六錢
 一、ス金、年入、千三百八十員、
 格言俚諺は以て興るべく以て鑑むべく、特に作文演説の絶好資料たるべく、立身處世の最良指針なるべし、本書は、今東西各國に於ける、格言諺言を網羅して遺すなければ、兼て吾國の風俗民情を攷察するに足るべし。
 故文學博士 中村正直先生編

改訂西國立志編

戶川 殘花 先生 著

世界三大宗教

山田 美妙 先生

萬國人名辭書

木村 一步 先生 編

教育辭典

(五の一四)

從二位侯爵 山縣有朋君題辭 前法制局長官 末松謙澄君序文
 司法大臣 清浦奎吾君序文 衆議院議長 奥田義八君序文

增訂 現行 日本法令大全

全壹册 背皮金文字入
 紙數千二百餘頁 上製

特別賣價金二圓
 口方六百匁

坪谷善九郎先生譯

編羽生人先生著

工業進化論

全壹册 洋裝 正價金五拾錢
 大判 頗美本 郵稅八錢

土木工部局 井倉馨先生著

實土木便覽

全壹册 袖珍 正價金七拾錢
 總タロニス 郵稅六錢

本書は專ら土木工事に從事する者の爲めに之に必要なる各種材料の性質強弱試驗法、用法、構造並に建築測量の事項上關於於注意すべき事項諸般の公式諸種の表等を網羅蒐集したるものなれば、苟くも是等の業に就く者人の備へざるべからざる寶典なり。

故文學博士 中村正直先生譯述

改正 西國立志編

全壹册 洋裝
 正價金五拾錢
 郵稅八錢

中村正直先生の西國立志編は、其譯語の精練にして文章の謹嚴なる、匂々金

果樹栽培全書

全四册 洋裝 正價金壹圓 郵稅廿四錢

蔬菜栽培書

全壹册 洋裝 正價七拾錢 郵稅拾二錢

農學士 稻川乙丙先生著

農學階梯

全壹册 背皮 正價十拾九錢 郵稅二錢

玉一文字と雖、苟くもせず。古く譯し、中村正直先生の西國立志編は、其譯語の精練にして文章の謹嚴なる、匂々金の首像と自叙傳千字文とを巻首に掲げ、價格を廉にして發行したり。

本書は明治初年より今卅年四月發布の新法令に至る迄、悉く網羅し、法律、勅令、閣令、省令、訓示等、皆彙を正し類を分ち、整理として公刊せり、

銀行實踐法

全壹册 洋裝 正價金六拾錢 郵稅十錢

國立銀行の營業漸明となるもの漸く踵を接し、私立銀行の設立も夥たしく増加す。此際勸業銀行、農工銀行等の設立せられんとするあり、金融機關の整備日に完らんす。然れども各銀行の由來、性質、組織、作用營業の方法及び之に關する各種の法則等を知らざれば、其効能を全くしむべし、本書著者久しく身を大藏省銀行局に奉じ、世に此等の要件を詳述したるの書なきを憂へ、八稿の條以此書、撰す。凡そ各種銀行に關し世人の知るべき要す事項は、細々詳述して編らすことなし。

増井増次郎先生著

博文館十周年紀念臨時增刊
太陽 第三拾貳號 終

本號ニ
 限リ 定價金卅八錢

太陽定價

每月二日發兌

版	權	所	有
一冊 (三百頁以上)	金拾七錢	內地郵稅	一冊三錢
六冊 (三ヶ月分)	前金九拾八錢	外國郵稅	歐洲十錢
十二冊 (半ヶ年分)	前金壹圓九拾錢	北米七錢	
廿四冊 (一ヶ年分)	前金三圓七拾錢		

注意(本誌ハ前金ニアラサレバ一切發送セズ●前金切レ候節ハ直ニ
 逕送テ止ム●郵券代用一割増ニテ五厘壹錢切手ニ限ル)

發行所 **博文館**

東京市日本橋區本町三丁目八番地

電話本局 三百三番

編輯人 岸上 大橋新太郎
 發行人 敬利世
 印刷人 愛敬利世

廣告掲載料

三等(五號活字 廿四字詰)

一行金三拾錢

全廿四行 六十四行

一頁金拾九圓貳拾錢

二等 一頁金廿三圓〇四錢
 一等 一頁金三十圓拾二錢